

## 実践記録

学校/学年	中学校 / 全学年	
教科等：単元名	総合学習：「コンピューターウイルスへの対応」	
キーワード	コンピューターウイルス、セキュリティソフト	
情報モラル指導モデルカリキュラム表における目標	分類	情報社会の倫理 法の理解と遵守 安全への知恵 情報セキュリティ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	h5：情報セキュリティ確保のために、対策・対応がとれる
	中目標項目番号 中目標項目内容	h5-1：情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる
授業会場	パソコン教室 普通教室 特別教室〔 〕 その他〔 〕	
学習の目標	コンピューターウイルスとは何か、社会への影響を与えるか説明できる。 コンピューターウイルスによる被害の受けないための方法、被害を受けたときの対処方法がわかる。	
使用教材	教材名	インターネットと情報セキュリティの基礎知識
	製作者	総務省
	入手先(URL等)	<a href="http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/kiiso/k00.htm">http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/kiiso/k00.htm</a>

### 展開案

	学習活動	指導 評価
導入	1. 全員にデモメールを送る。 2. 実際に宛先不明のメールが着たときのどうすればいいか考えさせる。	・ リンクをクリックしただけでもコンピューターウイルスに感染してしまう可能性があることに気付く。 ・ 宛先不明のメールは開かない、興味本位でリンクをクリックしないことを理解させる。
展開	3. 「インターネットと情報セキュリティの基礎知識」を見ながらワークシートを記入させる 4. 実際にどのようなウイルスがあるか見せる。 5. ウィルスに感染した場合どのような対策をとればいいか考えさせる。	・ どのようなところからコンピューターウイルスに感染するか理解できる。 ・ コンピューターウイルスに感染すると他人のパソコンにも被害が出ることを考えさせる。
おわり	6. ワークシートにまとめを書かせる。 7. 時間があれば、パソコン検定 5 級を受けさせる。	・ コンピューターウイルスに感染しないためには、どのような対策が必要か理解する。

### 授業の成果

- ・ 最初のデモメールをクリックした生徒が 14 人中 10 人と多かった。
- ・ まとめではほとんどの生徒が、コンピューターウイルス対策としてセキュリティソフトを導入する重要性について理解していた。しかし「セキュリティソフトを定期的に更新する」と書いた生徒は少なかった。

### 指導のポイント・留意点

- ・ デモメールには「今日の授業の資料です。」などを書いて、生徒が開いてしまうような内容にした。
- ・ 実際のメールなども見せ、「自分も感染する可能性がある」という、危機感を持たせるようにした。
- ・ パソコン検定5級は生徒同士が競い合いながら知識をつけられるため、空き時間の活用には有効であった。